

生活・職場実態から「ゆずれない要求」を掲げ、賃金闘争を全力でたたかい抜く決議（案）

人事院は、8月8日、これまでの自治労の要求を踏まえ、32年ぶりの高水準となる月例給及び一時金の引き上げ勧告を、政府・国会に対して行った。月例給の配分について、青年層に重点を置いたことは私たちの要求を反映した成果といえるが、終わりの見えない物価高騰は賃上げ分を上回る状況にあり、低賃金で働く青年層の生活は厳しいということに変わりはないを増している。

青年部は、「賃金は労働力の再生産費である」という原則のもと、勧告制度のみに賃金決定を委ねるのではなく、賃金リーフなどを活用した学習会の組織化から、この間の賃金合理化の影響を確認する実損額計算や単組の昇給・昇格制度の把握、生活・職場実態点検手帳付け運動による不足や我慢の額を明らかにする取り組みなどに取り組み、たたかいを追求してきた。

これらに取組んだ仲間からは、「物価高で生活することだけで精一杯」「始業前や昼休み中に業務を行っているが、時間外手当を申請していない」という実態が明らかとなった。また、本部青年部で開催した集会においても「物価高騰により、支出が増えて生活が苦しい」「共働きでようやく生活ができる。一人で分の賃金では生活できない」「最低限の生活はできるが、自分の趣味を制限している」といった切実な実態が出された。その一方で、「要求してもどうせ人事院勧告以上に賃金は上がらない」「業務量が多いから組合活動が後回しになる」といったように賃金要求を諦めてしまっている仲間「いざとなったら転職すればいい」と賃金にこだわりの持てない仲間もいる。

本総会での全体討論において、山形県本部からは、およそ8割の青年層が現在の賃金に不満であり、多くの仲間からは「一時金や貯蓄を切り崩して日々の生活を送っている」「その中でも現在の賃金では不安なため、老後将来にむけて貯蓄したい」と現在の将来にむけての賃金に対する不安の後ろ向きな声があがっている。

北海道本部からは「外出したいけど、ガソリン代が高いので家に籠もっている」「食費や冷暖房費を切り詰めて生活している」といった我慢の声が仲間から出されている。しかしながら「人勸準拠で決まってしまうので要求しても変わらない」「賃金よりも勝ち取りやすい職場課題を優先する」というアクラメの気分から賃金闘争へ結集しづらい実態も出されているが、総務省との意見交換会にむけて取組んだ全道統一アンケートについて、幹事会答論の討論では「仲間へ意義を伝えきれない」といった声も出されたものの、この間の単組の状況や幹事の不安に向き合いながら仲間との討論からを行ったことで「少しでも改善できる可能性があるなら取り組みたい」といった声が出され、それぞれが最大限奮闘している仲間の実態があきらかとなつて集めている。

賃金闘争を強化するためにも改めて私たちは、労働力を売って賃金を得ることでしか生活ができない労働者であることを認識し、「賃金リーフ」などを活用した学習会から、賃金は衣食住を賄うものだけではなく、趣味や娯楽といった文化的な生活の営みや、子どもの養育費などを含んだ「賃金は労働力の再生産費」という賃金論の学習を強化していこう。

そして、2024 確定期にむけて、職場・地域で「今の賃金で本当に足りているのか」「将来の生活にいくら必要なのか」などを生活・職場実態点検手帳付けから明らかにするとともに、仲間との実態討論からゆずれない要求を確立し、賃金闘争を強化していこう。

自治労青年部は職場、単組、地域を越えた仲間と連帯しながら、賃金闘争を強化し、総力をあげてたたかい抜くものである。

以上、決議する。

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝, 12 pt

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝, 12 pt

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝

2024年8月25日

第69回自治労青年部定期総会以上、決議する。

2024年8月25日

第69回自治労青年部定期総会

書式変更: 右揃え

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝

書式変更: 右揃え, インデント: 最初の行: 0 字

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝

書式を変更: フォント: (英) MS 明朝, (日) MS 明朝